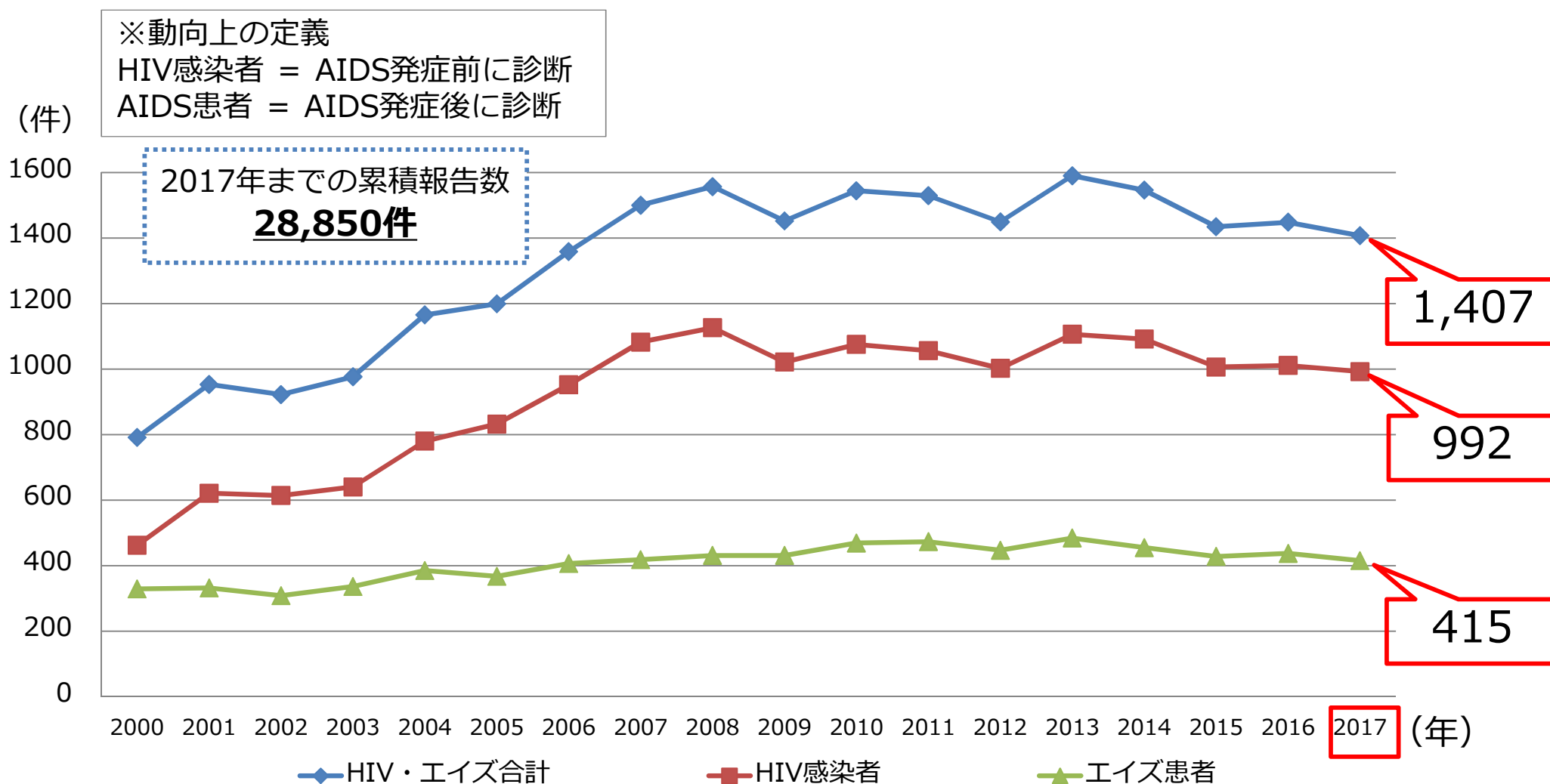


後天性免疫不全症候群の発生動向の 調査及び分析の強化について

我が国におけるHIV・エイズ発生動向（年次推移）

● 新規HIV感染者・AIDS患者報告数の年次推移

※ 確定値ベース、ただし2017年データは速報値



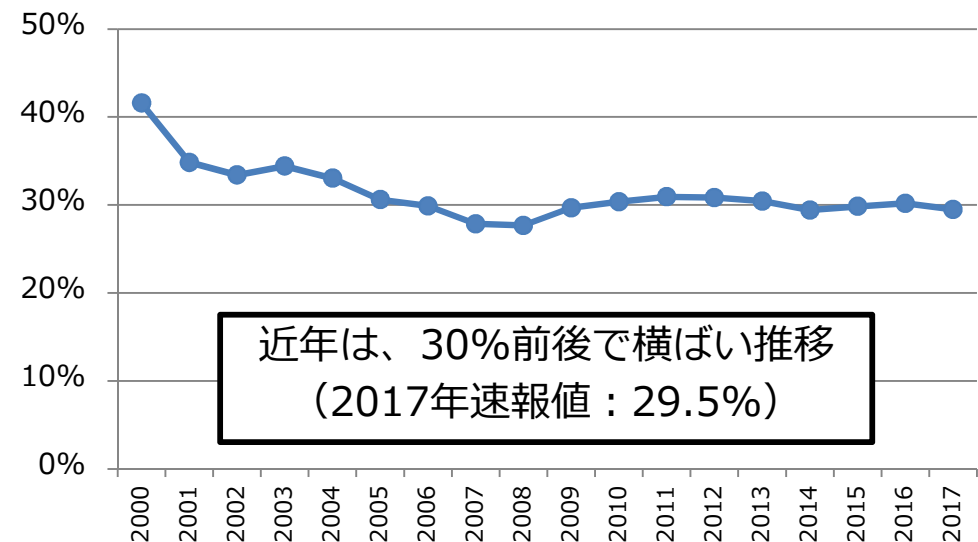
1990年代から、新規HIV感染者報告数は増加傾向にあったが、2008年以降は横ばい傾向に転じている。一方、新規エイズ患者報告数は未だ減少傾向にはない。

発生動向の調査及び分析の強化について

○ 「いきなりエイズ率」について

- ・ いわゆる「いきなりエイズ率」とは、発生動向報告において、新規HIV感染者及びエイズ患者の合計数のうち、新規エイズ患者の占める割合をいう。
- ・ 「いきなりエイズ率」が低いほど、エイズを発症するまでHIV感染を自覚することのなかった者の占める割合が少なく、比較的早期に診断できている者の割合が多いこととなる。
- ・ 近年、我が国における「いきなりエイズ率」は横ばい推移しているものの、明らかな減少傾向とはなっていない。
- ・ なお、「いきなりエイズ率」は、集団に対する評価のみに用いることができる指標であり、個別のHIV感染者において、感染から診断までに要した時間の指標となる情報ではない。

● 「いきなりエイズ率」の年次推移



- 
- 我が国における今後の対策として、早期診断の推進が重要ではないか。
 - 早期診断の推進に向けて、個別のHIV感染者において感染から診断までに要した時間の推定に資する情報や、より客観性の高い情報の収集も必要ではないか。

HIV感染症の早期診断の指標について

○ 診断時のCD4陽性Tリンパ球数（CD4値）について

- ・ CD4値は、HIV陽性者の免疫力を反映する重要な指標である。
- ・ CD4値は、減少の速度の個人差は大きいものの、ほとんどの感染者でHIV感染症の進行とともに減少していく。



○ 診断時のCD4値は、HIV感染症の早期診断の指標となり得るのではないか。

○ 情報収集の手法について

- ・ 診断時のCD4値は、国内全体の情報を収集し、かつ継続的に変化を追うことにより、国内におけるHIV感染症の早期診断の推進度合いが把握できる可能性があることから、悉皆性及び継続性が高い手法が望ましい。
- ・ また、他の疫学情報と合わせて分析することにより、例えば、特定の集団における早期診断の推進度合いが把握できる可能性があること等を踏まえると、他の疫学情報と突合できる手法が望ましい。
- ・ さらに、収集したデータを分析し、エイズ動向委員会を通じて公表し、広く情報提供をする必要があることから、データ利活用がしやすい手法であることが望ましい。



○ 診断時のCD4値を収集する手法として、発生届の届出事項に追加することとし、その収集率等をより高くするための方策を検討することとしてはどうか。

発生動向の調査及び分析の強化（案）

○ 早期診断の推進度合いの把握に向けて

- ・ HIV感染症の早期診断の指標として、診断時のCD4値を把握することとしてはどうか。
- ・ 診断時のCD4値を収集する手法として、発生届の届出事項に追加することとしてはどうか。
- ・ 懸案事項として、保健所及び診療所から届出が行われた場合のデータ欠損等が挙げられることから、以下を十分に周知しながら、情報収集への協力を依頼することとしてはどうか。

【特に周知する事項】

- 診断時のCD4値を記載するために、届出そのものを滞らせることが無いようにすること。
- 診断時のCD4値が欠損していた場合には、その届出を受理した保健所は、届出を行った医師に対して、診断時のCD4値の提供を依頼すること。また、その際には、必要な手続きに関する適切な情報提供を行うこと。

○ 分析結果等の公表について

- ・ 収集した診断時のCD4値の分析結果等については、エイズ動向委員会において、有識者間での意見交換を行った上で、必要に応じて公開することとする。